

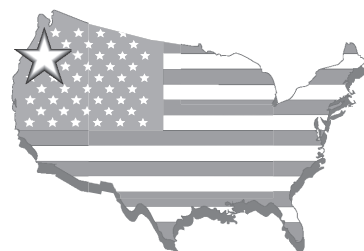


Tokyo, JAPAN

アメリカ留学日記 私の異文化体験記 (6)

早稲田大学文化構想学部 3 年

三浦 礼子



Portland, OR, U.S.A.

2009 年 9 月から 2010 年 6 月まで、オレゴン州ポートランドの Portland State University に留学しています。
このコラムでは、私の留学生としての「異文化体験」を記していきます。

留学が始まってから9カ月、私の参加している留学プログラムが無事に終了しました。今学期も、最後のテストが終わるまではこれまでと同じように課題やテスト勉強に追われて忙しい日々。プログラムがもうすぐで終了するという余韻に浸る暇はありませんでしたが、6月の中旬に行われたお別れパーティーで就業証を受け取り、初めて自分の留学生活が終わりに近付いていることを実感しました。パーティーでは、これまで9カ月の期間を英語の授業などで一緒に過ごしてきた同じプログラムの友達や先生、何人かの教授も顔を出してくれました。私の場合は夏の授業も受講するため、これが留学生活のピリオドではありませんが、留学が始まってから今までの期間を振り返る良いきっかけです。この9カ月はあっという間だったようでも、やはりいったん立ち止まって思い返してみると密度の濃い時間を過ごしていて、楽しかったり忙しかったりすると本当に時間が過ぎるのが早く感じるのだということをしみじみ感じています。

留学の醍醐味のひとつ

留学前はアメリカ本土にきたことのなかった私。せっかくのアメリカで長期間滞在する機会を生かして、これまでにニューヨークやロサンゼルスなど、いくつかのアメリカ国内の有名な都市へ旅行しました。春学期と夏学期の間の休みは1週間程度。

その休みをフルに利用し、今回は念願だったアメリカの国立公園を巡る旅に出かけてきました。同じ留学先の友達4人と共に、行き先は Death Valley, Grand Canyon, Antelope Canyon。カリフォルニア州に始まり、ネバダ州、アリゾナ州にわたってドライブでの旅。日本では絶対に味わえないような夢のような1週間でした。まずは Death Valley。数あるアメリカの国立公園の中でもっとも敷地面積が広く、気温が高く乾燥している地域にあります。直訳して「死の谷」というその名前にふさわしく、砂漠の上や植物のまったく生えていない地形の上を歩きまわり、広い国立公園内を、それも猛暑の中を長時間かけて移動するのは、車を使うこの時代でも大変なこと。交通手段がまだそこまで発達していない時代、この土地を訪れることはまさに命がけだったことでしょう。次は知名度の高い Grand Canyon。なんといってもスケールが大きく、360°に広がる巨大な峡谷に圧倒されっぱなしでした。世界中から訪れる観光客の数は、年間で400万人にもものぼるとか。その絶景を必死になって写真に収めようとするものの、百聞は一見に如かずとはこのこと。生で見る感動はカメラのレンズからでは伝えきれません。そして Antelope。ここは国立公園でも州立公園でもないのですが、長年にわたる鉄砲水や風成による浸食が作り出した神秘的な地形が観光客や写真家に人気のスポットです。1時間ほど見て回ることでできる小さなスポットですが、これからアメリカを訪れる人にぜひお勧めしたいお気に入りの場所の一つとなりました。

大自然を思う存分肌で感じることに、それもここでなければできない経験のひとつ。自分がこれまでに目にしたことのないような風景、その中に自分がいることが不思議で、ついつい時間を忘れてしまいました。授業がある期間はキャンパス内という狭い空間で日常を過ごしているから、旅行をして非日常的な世界に飛び込みつかの間の休憩をとると、本当に心身ともにリフレッシュされます。現地の学生はその大半が長い休暇を実家



グランドキャニオンにて